［成果情報名］2021年漁期における県産クロマグロの特徴
［要　　　約］2021年漁期の県産クロマグロは大型個体の漁獲が増え、60㎏以上の平均単価（円/kg）は30㎏未満の3倍以上であった。単価は魚体重や漁獲時の取り扱いに左右される。大型魚狙いの操業の推進に加え、鮮度保持等漁獲物の高品質化の指導が必要である。
［部　　　署］山形県水産研究所・資源利用部
［連　絡　先］TEL 0235-33-3150
［成 果 区 分］政
［キーワード］クロマグロ、体重、単価、脂肪率

［背景・ねらい］
山形県沿岸では、これまで30㎏未満の小型クロマグロの水揚げが中心だった。しかし、2021年漁期においては40㎏以上の大型個体の水揚げが目立ち、水産庁が発表した資源増加を裏付ける結果となった。そこで、クロマグロ大型魚の特徴を明らかにし、今後の漁業者支援及び指導に役立てる。

［成果の内容・特徴］
1　山形県漁業協同組合の販売データによると、2021年5月から7月の最盛期においてクロマグロの漁獲量、漁獲金額は6月が最も多かった（図１）。

2　一方、平均単価は5月で2,876円/kg、6月で1,776円/kg、7月で983円/kgであり、5月が最も高かった。その主要因として、西日本の旋網漁業の操業開始前で流通量が少なかったことが考えられる。さらに、県漁協職員からは、他産地のものより品質が高く評価され、6月以降の単価にも好影響を与えたとの意見があった。

3　平均単価を体重別にみると、体重に比例して高くなる傾向があった（図２）。30㎏未満と60㎏以上では、それぞれ1,445円/kg、4,526円/kgであり、両者の間には3倍以上の差があった。

4　一般にクロマグロの単価は魚体のサイズや脂肪率に大きく左右される。そこで、2021年6月7日～10日に産地市場において脂肪率を測定し、単価との関係を検討した。なお、脂肪率測定には非破壊型の簡易測定器（大和製衡製、Fish Analyzer™ DFA110）を用いた。

5　上記の市場調査において脂肪率と魚体重との間に正の相関関係が認められた（図３）。30㎏以上を境に急上昇したが、55㎏以上での伸びは小さかった。一方、このときの平均単価は魚体重30㎏、57㎏を境に大きく跳ね上がり、特に57㎏以上では急上昇した（図４）。
脂肪率と魚体重の関係については、県内の関係機関及び県漁協へ速報として情報提供した。

6　さらに、県漁協職員とはえなわ漁業者の話として、本県から豊洲に送られたクロマグロのうち市場で値段が付かず、食用外に回されたものもあったという。それらは、県内でも複数のクレームがあったこと等から「ヤケ肉」であった可能性が高い。ヤケ肉は漁獲時の暴れや漁獲直後の取り扱いにより発生するため、今後は暴れさせない工夫や船上での鮮度保持（冷やし込み方法など）について漁業者への指導を強化する必要がある。

［成果の活用面・留意点］
1　今回使用した脂肪率の簡易測定器は、化学分析法との推定誤差が背部で±2.3 ポイント、腹部で±5.4ポイント、尾柄部で±3.8ポイント生じるとされており、得られた結果には若干の誤差が含まれている。

［具体的なデータ］

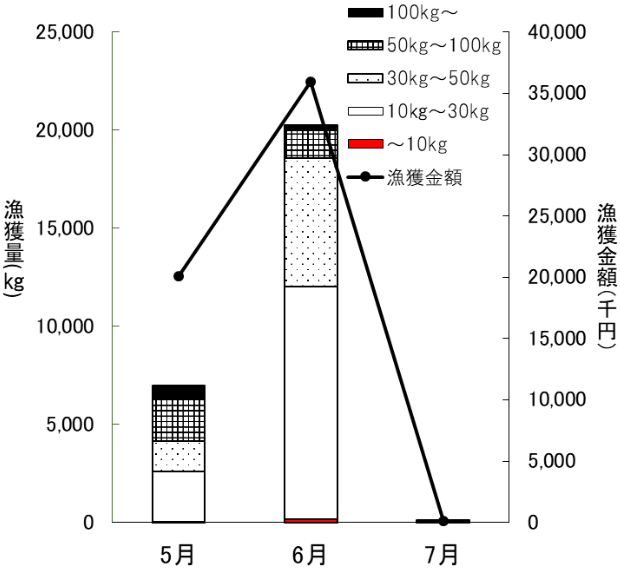

図１　2021 年５月から７月における
月別漁獲量及び漁獲金額

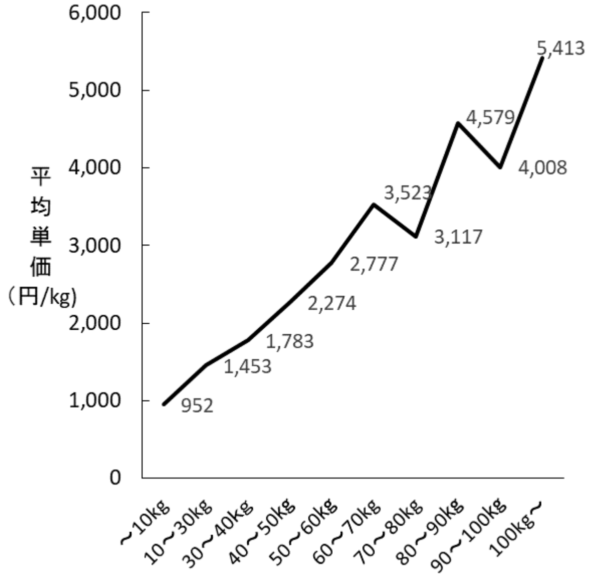

図２　2021 年５月から７月の魚体重別平均単価

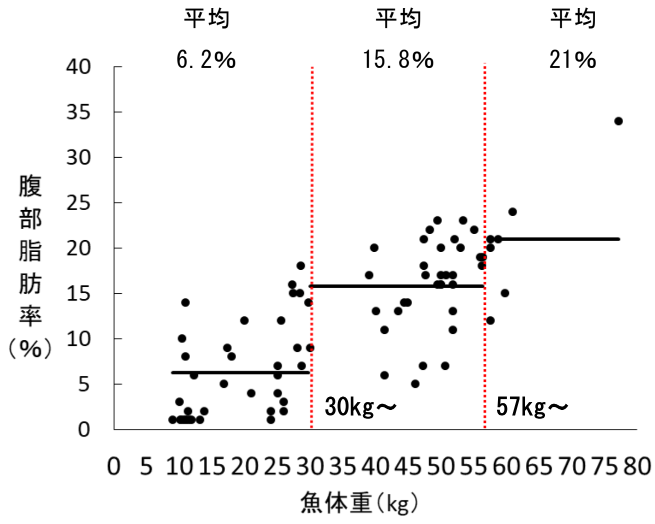

図３　市場調査における
魚体重と脂肪率の関係
（2021 年６月７～10 日）

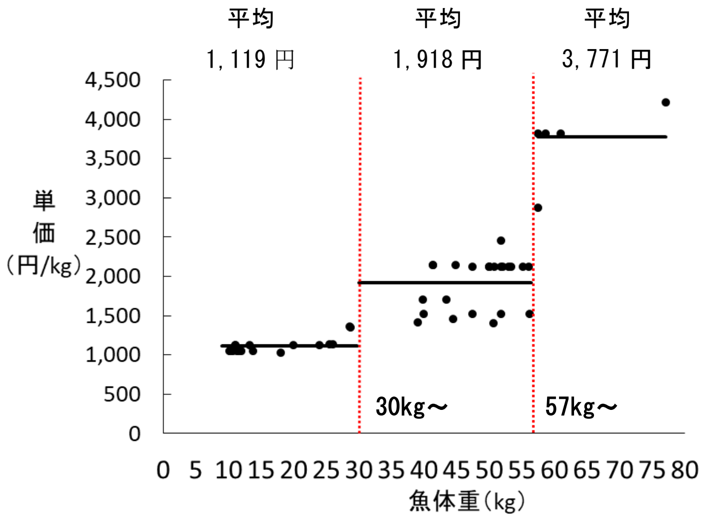

図４　市場調査における
魚体重と単価の関係
（2021 年６月７～10 日）

［その他］

研究課題名：科学的評価による庄内浜産水産物の品質向上試験

予算区分：県単

研究期間：令和３年度（平成 30～令和４年度）

研究担当者：五十嵐　悠

発表論文等：なし